

## 1 2 小教研分科会

下学年A・Bグループ、上学年A・B・Cグループに分かれ、1学期の授業実践の板書写真をもとに、以下の視点で協議し、道徳科授業の課題を共有。

- |                     |
|---------------------|
| (1) 教材との出会い・学習課題の把握 |
| (2) 自分の考えを持ち、伝える活動  |
| (3) 成長を実感させる自己評価の設定 |



(分科会協議より)

- ・ 児童の実際の生活場面と結びつけて考えさせる。
- ・ ワークシートに書かせてから発表させる。何度も出てきた言葉に線を引くなど工夫する。
- ・ 形式張らずフリーに話し合いをさせ、教師が話し合いをコーディネートする。
- ・ 実態に応じた振り返りの内容にする。アンケートを最初と最後に取り、変容がわかるようにするのはとても効果的である。
- ・ 下学年は役割演技が効果的。板書の工夫により多面的・多角的に考えられる。
- ・ 特別支援学級での道徳の授業の仕方。
- ・ 教師の発問によって考えをゆさぶる必要がある。

## 1 3 ご指導

指導助言者 南相馬市教育委員会 学校教育課参事兼指導主事 村上 潤一 様

- (1) 現職教育全体計画について
  - ・ 自分事として考えること、自己を理解すること大切。
- (2) 授業実践報告について
  - ・ アンケートを提示したことで児童が自分達の実態を理解できた。筋の通った問い、発問構成になっていて、いろいろな意見に触れることができた。
  - ・ 本音で語れる→先生と児童、児童と児童の信頼関係がベースになる。
  - ・ 問いを児童の言葉を拾いながら決める。何度も問いに振り返ることでぶれない。
  - ・ 児童の考えをゆさぶる。→児童の考えが深まる。
- (3) 板書について
  - ・ 感情マーク、吹き出し、ネームプレートなどの工夫。横書き縦書きどちらでもよい。児童に分かりやすく楽し振り返りための板書。
  - ・ 板書計画を先に考えることも有効。短い言葉でまとめる。児童に書かせる板書もある。
- (4) 教材との出会いについて
  - ・ 読む際の視点を与えてから読む。気持ちが伝わるような範読を行う。
  - ・ 物語の中で様々な読みをすることで多面的・多角的に考えられる。
- (5) 学習課題について
  - ・ 児童が考えてみたいと思えるような問いを。
  - ・ 変容が明らかになる問いを。
- (6) 考え・議論する道徳について
  - ・ なぜそれを考えさせるのか教師がしっかりとって授業を行う。



- ・ 児童が考えを書くことは大切。自分の考えを残しておくこと大切。
- (7) 自己評価について
  - ・ 導入と展開後半で同じことを問う。児童にとってスタートも違う、ゴールも違う。その子の変容を見取ることが大切。
  - ・ 資料から離れて自己をふり返る時間をしっかり設ける。次はこうやってみようと思える発問、振り返り。
- (8) 授業改善の視点について
  - ・ 児童の実態をしっかり把握。そこから児童をどのように成長させたいのかをしっかり持つことが大切。
  - ・ 価値を追求していくような話し合いをすることが大切。
  - ・ 発問の工夫→「進める」「広げる」「深める」問い返し。
  - ・ 自己を見つめるために、教材を離れる発問をする必要があり、起承転結を意識した授業をする。
- (9) 最後に
  - ・ 多様性を認めながら、自分の納得する考えを見つける→考え・議論する道徳

## 1.4 研究の成果

- コロナ禍における研究を推進するため、相馬地区小教研として昨年度より一人一教科となり、部員が以前の3割程度となった。理事会等はリモートで実施し、研究協議会も会場で少人数に別れリモートで安全に配慮しながら開催するなど、できる限り可能な形で研究を進めることができた。
- 1年次として研究推進校の実践状況の報告を開催し、板書写真をもとに研究協議し、同じ題材でも様々な思考ツールがあり、会員相互の実践研究につなげることができた。
- 導入と展開後半で同じ事を再度問うことにより、児童の変容を見取り、評価につなげることができた。
- 「ハートフルだより」の発行で教師の道徳授業の質的向上を図り、授業の内容を道徳だより等で知らせることで家庭や地域とのつながりを深めたりすることができた。
- 「ありがとうの木」を全学年で行った。次年度も継続発展させていきたい。

## 1.5 反省と今後の課題

- 児童が考えてみたいと思えるような問いを提示し、また、教材を通してなぜそれを考え、議論させるのかを考える必要がある。考えとは、多様性を認めながら、自己のよりよい生き方を見つける事につながる。
- 資料から離れ、自分事として捉え、自己の成長を自覚できるような振り返りの時間をしっかりと確保することが課題として挙げられる。
- 他教科、家庭、地域とのつながりを図り、一体となって道徳教育を進める。
- 道徳コーナーの設置等、全学年で計画的に進められるようにしていきたい。
- 同じ価値項目の授業が多かったので、次年度は、より多くの価値項目の研究授業に取り組んでいけるようにする。
- 地域の方や担任以外のゲストティーチャーを招く等の多様な授業実践も行っていきたい。